

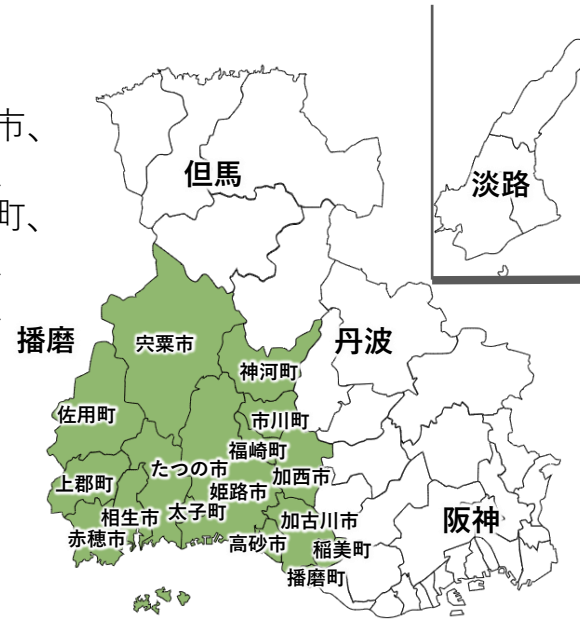
I 広域連携の推進 (本編：P1～7)

●ビジョン策定趣旨

- 人口減少等により、地域の担い手確保や行政サービスの維持が、今後より一層深刻な課題となることが予想される。
- 播磨圏域の市町が連携して具体的な取組を推進することで、圏域全体の活性化、魅力向上等を図り、活力ある社会経済を維持することを目指して本ビジョンを策定する。

●連携中枢都市圏の名称・構成自治体

- 名称：播磨圏域連携中枢都市圏
- 構成自治体：姫路市、相生市、加古川市、赤穂市、高砂市、加西市、宍粟市、たつの市、稲美町、播磨町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町。計8市8町。

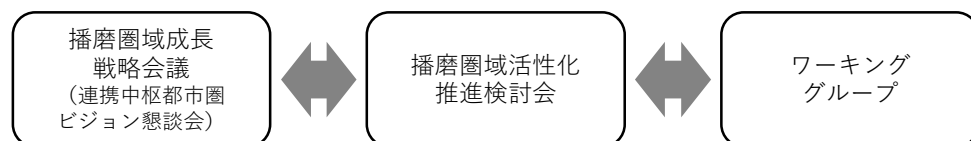


➢ 圏域の概要

- 人口：1,273,492人（総務省「国勢調査（2020年）」）
- 面積：2,800.11km²
- 歴史：兵庫県の南西部に位置し、古くから京阪神と中国・山陰地域の交通結節点として栄えてきた。
- 産業：域内総生産約6.1兆円、製造品出荷額約5.7兆円。製造業の集積が厚く、1県に匹敵する経済規模を有している。

●計画期間・推進体制

- 計画期間：2025年度～2029年度
- 推進体制：播磨圏域成長戦略会議、播磨圏域活性化推進検討会、ワーキンググループを設置し、相互に連携しながら連携事業を推進。



●社会の動向

- 計画を取り巻く社会の動向として、少子高齢化・人口減少の急激な進行、デジタル化の進展、訪日外国人観光客（インバウンド）の拡大がある。

II 圏域づくりの基本方針 (本編：P8～16)

●第2期ビジョンの成果と課題

- 「圏域全体の経済成長のけん引」、「高次の都市機能の集積・強化」、「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」の3つの役割から全56分野で具体的取組を実施。
- 2020年以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各連携事業を十分には実施できない状況に陥るといった困難はあったものの、連携協約の締結から10年が経過し、個別の事業では一定の成果が出ている。

分野	主な取組内容	
圏域全体の経済成長のけん引	起業プラザひょうご姫路 	GIはりま
高次の都市機能の集積強化	姫路市文化コンベンションセンター (アクリエひめじ) 	はりま姫路総合医療センター (はり姫)
圏域全体の生活関連機能サービスの向上	コミュニティバス「ふくひめ号」 	救急搬送支援システム「HEARTS」

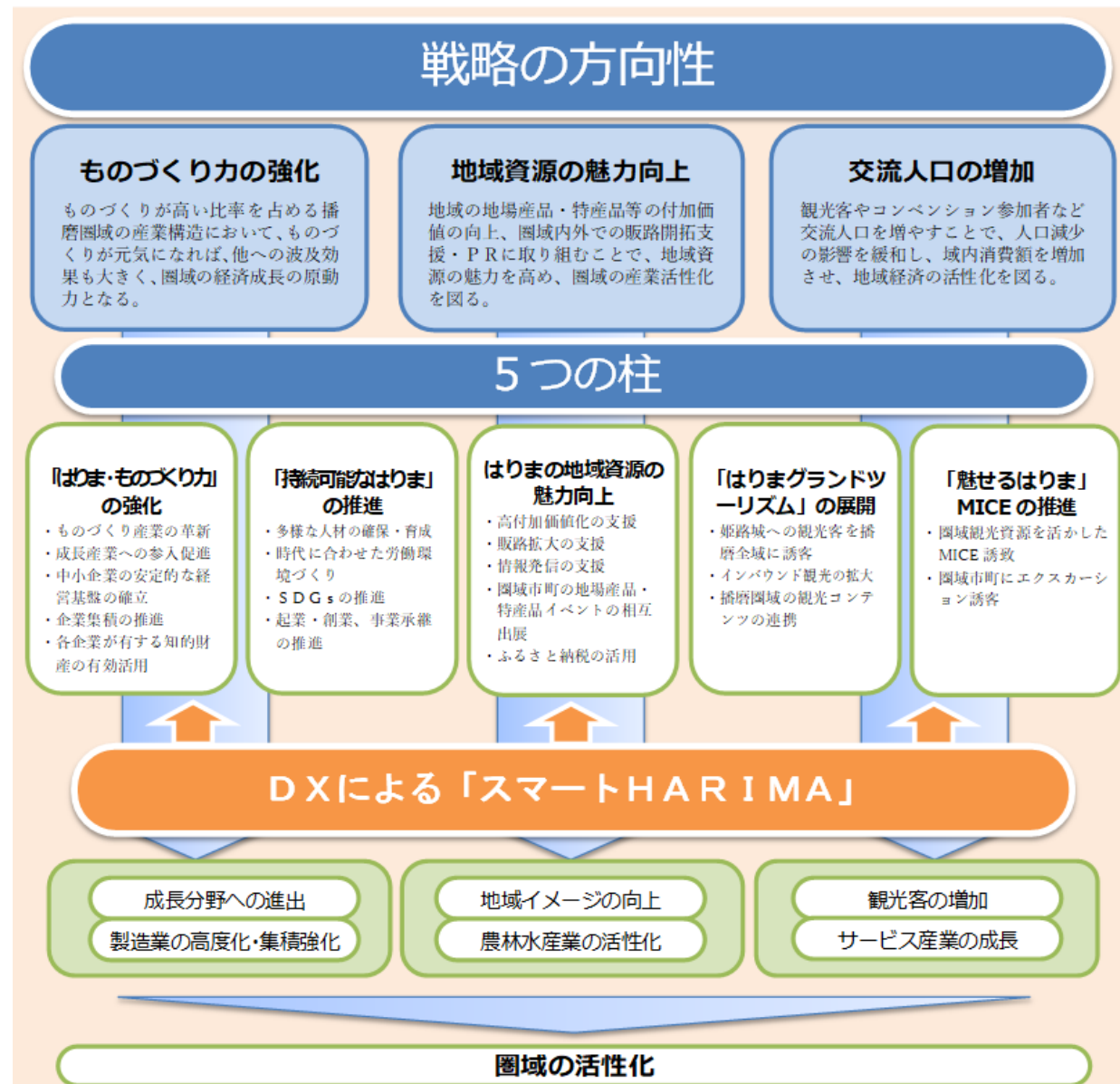
● 播磨圏域の目指す姿

➢ 目指すべき将来像

- 今後一層加速すると見込まれる人口減少・少子高齢社会への適応や、将来的に生じる変化・課題、大規模な自然災害や感染症等のリスクにも的確に対応し、持続可能な形で行政サービスを提供していくためには、デジタル技術の活用が必要不可欠である。
- デジタル技術を活用したDXを推進する地方創生施策「スマートHARIMA」を旗印に掲げ、圏域経済の成長、住民サービスの向上、行政事務の効率化に向けて取り組み、市域を超えた「ボーダレスな先進デジタル都市圏」を目指す。

➢ 播磨圏域経済成長戦略

- 播磨圏域経済成長戦略の3つの方向性、5つの柱を整理した。
- 5つの柱に沿った施策・事業を展開していく際には、「スマートHARIMA」を掲げ、デジタル技術を活用したDXの推進を実現する。



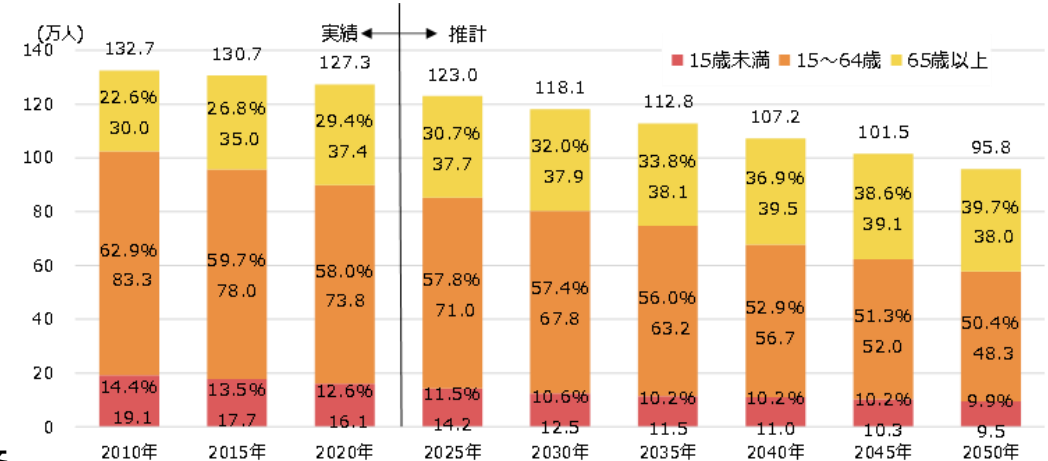
「スマートHARIMA」で実現する
ボーダレスな先進デジタル都市圏

Ⅲ 圏域を取り巻く環境（本編：P17～31）

● 人口

- 2020年時点では約127.3万人の人口が、2050年には約95.8万人になる推計。2050年には65歳以上人口比率が約39.7%まで上昇するなど、働き手の減少が深刻化していくことが予測されている。
- 自然減少幅は年々拡大しており、2024年は△9,365人であった。
- 社会減は2017年をピークに減少傾向にあり、2024年は△3,090人であった。

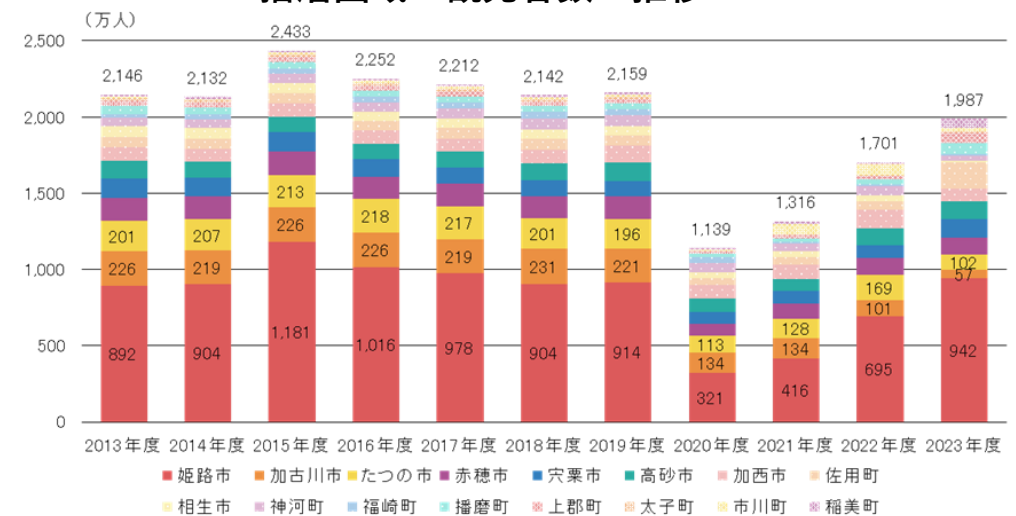
播磨圏域の年齢3区分別人口の推移と推計



● 経済

- 産業：製造業売上高が42.7%（2021年）と、全国・兵庫県と比較して高い。
- 農林漁業：経営体数は農林漁業とも減少傾向である。
- 観光：年間観光客数約1,987万人、観光消費額2,849億円（2023年）である。

播磨圏域の観光客数の推移



● 都市機能・生活関連機能

- 医療介護：拠点病院や救急医療体制は姫路市を中心に整備されている。
- 都市基盤・交通：交通発生量の減少が見込まれ、圏域で連携しながら計画的な体制構築を実施していく必要がある。
- 高等教育・研究機関：播磨科学公園都市など、高度教育機関・研究機関が集積している。

IV 将来像の実現に向けた具体的取組 (本編：P32～60)

● 施策体系・連携協約の成果指標

- 「圏域全体の経済成長のけん引」「高次の都市機能の集積・強化」「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」から45の具体的取組を推進する。
- 成果指標 (KPI) は、分野、連携協約、具体的取組について設定する。



(参考) 第3期播磨圏域連携中枢都市圏ビジョン期間中に実施する具体的取組

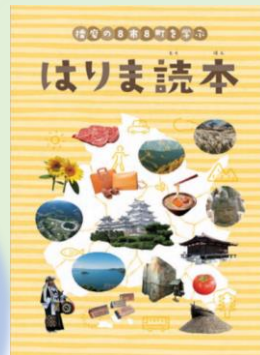
圏域全体の経済成長のけん引 (13項目)

地域資源

地場産品・特産品の
高付加価値化の推進



播磨圏域の情報発信



情報発信



全45項目

高次の都市機能の集積強化 (5項目)

姫路駅周辺整備事業の推進



高度な中心拠点の整備・
広域的公共交通網の整備

都市交通システムの整備促進



起業・創業・事業承継支援



産業振興

大規模集客イベント・
MICEでの連携



※写真提供：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

広域観光

地域内外の住民との
交流・移住促進

移住・定住の促進



地産地消の推進



地域の生産者や消費者等
の連携による地産地消

環境意識の啓発



環境

広域連携バス路線網等
の維持・形成



地域公共交通

災害対策

消防分野の連携・協力
の推進



図書館の相互利用促進



教育・文化・スポーツ

圏域全体の生活関連機能
サービスの向上 (27項目)

公立夜間中学による
就学の機会の提供

